

立射の作法

基本は、動作は息合で行いますが、立射と坐射で動作が違う場合は、立射の射手は坐射の射手の動作に合わせてを主体として、その合わせ方を下記に纏めましたので参考にしてください。

[審査における行射の要領（和服着用、五人立ちの場合）]

- 1、本座で肌脱ぎ（襷かけ）のため開き足を行うのに合わせて的は見ずに足を開き、弓を両手で正面に立てる。（弦正面、右手は弓の鳥打の辺りを保つ）
なお、襷をかけて入場する射手は、的正面に向かったまま、肌脱ぎを終えた射手が的正面に向くまで待つ。
- 2、肌脱ぎ（襷かけ）終了後、的正面へ向く開き足に合わせて右手を弓の目付節まで下げながら、やや右斜めにし、的正面に向きを変えながら弓を左脇に運ぶ。（左手は腰から離さない）なお、この時弓はあまり持ち上げない。
- 3、本座で坐射の射手が腰を切るのに合わせて、少し前に出て、列を整える。
- 4、射位で坐射の射手が開き足で脇正面に向きを変えるのに合わせて、的を見て足踏みを行う。
- 5、坐射の射手の矢番えに合わせて肩の高さ（弓と弦の間に顔が来る）で矢番えを行う。筈を保ち、捧持する気持ちで、円相にて左膝頭に本弭を置く。
- 6、坐射での立ち上がるタイミングで取矢（乙矢の場合は、弦調べ）を行い、前の射手の弦音で取懸け、行射する。
- 7、甲矢を射終わり、物見を返したら、的正面に向きを変えながら足踏みを閉じ、本座まで退がり、末弭を床に着けず、矢を持ち替える。
- 8、落の弦音で射位に進み、乙矢を行射し退場する。

その他

- (1)持的射礼及び一つの射礼で、定め座、本座での礼、揖の後、坐射の射手が腰を切るのに合わせて、少し前に出て、列を合わせる。
- (2)持的射礼で、5番の場合、甲矢を射終わって物見を返したら、足踏みを一端閉じてもそのままでも構わない。なお、矢番えは同時に行う。
- (3)持的射礼で「物見返しの間合い」の場合、前の射手が本座に退がり始めた時に次の動作を行う。
- (4)競技では、
 - ①甲矢の行射後、射位にとどまり乙矢を行射する。
 - ②四つ矢の競技では、持矢を床に置く時と次の一手を取る時は、末弭を床に着ける。
- (5)その他については、この「弓礼・弓法問答集（改訂版）」を参考にすること。